

第5回 六ヶ所村新庁舎建設検討委員会 議事録

日時	令和3年7月14日(水) 14:00~15:30	
場所	尾駮コミュニティセンター 集会室	
出席者	<p>高橋信委員 (東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻技術社会システム専攻 教授) 【委員長】</p> <p>伊藤宗太郎委員 (公益財団法人 環境科学技術研究所 常務理事) 【副委員長】</p> <p>高橋文雄委員 (六ヶ所村議会議長)</p> <p>高田博光委員 (六ヶ所村議会総務企画常任委員会 委員長)</p> <p>小藤一樹委員 (八戸工業大学工学部土木建築工学科感性デザイン学部創生デザイン学科 准教授)</p> <p>高田孝徳委員 (六ヶ所村行政連絡員協議会 会長 兼 六ヶ所村三漁協協議会 会長)</p> <p>三戸秀子委員 (六ヶ所村地域連合婦人会 会長)</p> <p>種市治雄委員 (六ヶ所村商工会 会長)</p> <p>及川次夫委員 (一般社団法人六ヶ所村観光協会 会長)</p> <p>橋本喜代二委員 (社会福祉法人 六ヶ所村社会福祉協議会 会長)</p> <p>石久保斉委員 (六ヶ所村農業委員会 会長)</p> <p>久保勝廣委員 (特定非営利活動法人六ヶ所村スポーツ協会 会長)</p> <p>久保政廣委員 (六ヶ所村消防団 団長) ※欠席</p> <p>工藤健司委員 (六ヶ所村教育委員会 教育長職務代理者)</p> <p>齋藤英明委員 (公募)</p> <p>秋元美穂委員 (公募) ※欠席</p> <p>林巧委員 (国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構核融合エネルギー部門 六ヶ所核融合研究所 ブランケット研究開発部長)</p> <p>工藤純一委員 (新むつ小川原株式会社取締役常務執行役員 青森本部長)</p> <p>相澤文雄委員 (日本原燃株式会社東京支社 副支社長 地域・広報本部 副本部長)</p>	
	事務局	<p>六ヶ所村役場 総務課 種市課長</p> <p>六ヶ所村役場 総務課 円子課長補佐</p> <p>六ヶ所村役場 総務課 林下GM</p> <p>六ヶ所村役場 総務課 佐々木主査</p> <p>六ヶ所村役場 総務課 橋本主事</p> <p>六ヶ所村役場 総務課 小比類巻主事</p>
	事務局支援	建設技術研究所東京本社都市部 PFI・PPP 室 川井、猪股

1. 配布資料

- 第5回六ヶ所村新庁舎建設検討委員会 次第
- 資料1 各種災害について
- 資料2 六ヶ所村新庁舎建設候補地の評価（7候補地）
- 資料3 六ヶ所村新庁舎建設候補地の評価（4候補地）
- 参考資料1 第4回六ヶ所村新庁舎建設検討委員会議事録
- 参考資料2 青森県 津波浸水想定 概要資料（令和3年5月27日公表）
- 参考資料3 新庁舎に対する原子力防災機能の考え方について
- 参考資料4 議会議員全員協議会発言要旨
- 参考資料5 六ヶ所村 新庁舎建設検討フロー
- 参考資料6 六ヶ所村新庁舎建設基本構想・基本計画検討スケジュールについて

2. 審議内容

（1）開会

- 事務局より、開会の挨拶を行った。
- 事務局より、委員の変更について報告を行った。

（2）委員長あいさつ

- 委員長より、挨拶を行った。
- 事務局より、配布資料の確認を行った。

（3）案件

<①各種災害について>

- 事務局より、資料1「各種災害について」の説明を行った。
- 【委員】参考資料3、N05では、役場機能の移転状況を整理しているが、同じように参考資料2の津波災害についても庁舎の高台移転等の状況を整理していただけると助かる。
⇒【事務局】今後調査して報告したい。
- 【副委員長】津波、地震、原子力災害について、複合災害もあり得るが、村の役割を踏まえううえで、どういった災害に対して強い庁舎とするのかを考える必要がある。津波については20～30分で来てしまうため、まずは村職員が住民に情報を伝え、住民は自身の命を守る必要がある。そして、第1波をやり過ごし、その後の救出等が村の役目となる。そのための建設場所の判断が必要である。一方、原子力災害は様相が異なり、放射性物質が漏れても被害の進行が比較的遅く、時間的余裕がある。福島第一原発の事故により避難の考え方が大きく変わった。当時は避難が第一であったが、その結果、大渋滞となり混乱が起こった。放射性物質は風向きが時間により変わり、どこに避難すれば良いか分からず本来不必要な被害が発生した。PAZは放射性物質が漏れていなくとも直ちに避難する区域、UPZは避難の前にまず屋内退避が必要な区域であり、その後の国のモニタリング後に指定された地域が避難することになる。そういったことを踏まえて新庁舎建設地の検討が必要である。
⇒【事務局】意見を参考に災害ごとに庁舎に求められる条件を整理し示したい。
- 【委員】参考資料2、N02の「浸水想定留意点」の2点目、3点目について、東日本大震災時には、海岸一帯が沈降して浸水域が拡大した事例があった。津波による浸水想定が示されたが、あくまでシミュレーション結果であり、自然現象であるため、敷地の絞り込みの際も数字の取り扱いには留意いただきたい。
⇒【事務局】担当課にて青森県から示されたデータを基にハザードマップを作成している。ご意見を担当課に伝えて検討したい。また、ハザードマップ公表の際に、その点を住民に伝えたいと感じた。

- **【副委員長】** 原子力災害と一般の自然災害とでは極めて大きな違いがある。自然災害は県と村が対応し、それに応じて国が支援する。原子力災害は国が対策本部を設置し、それに自治体加わる。原子力災害は、放射性物質の影響範囲が目に見えなく、被害拡大状況が分からないため、極めて専門的な対応が必要であり、そのため国がオフサイトセンターを運営している。一方、村に期待される機能が何なのか、それは住民対応である。避難や避難所での対応、オフサイトセンターとの連携などが主な役割である。そのため、参考資料3の「7. まとめ」にオフサイトセンターと同様の機能と記載があるが、必ずしも新庁舎がオフサイトセンターの機能を持つ必要はない。スワニーや小学校の陽圧化の事例を挙げていたが、庁舎全体を陽圧化するとすると相応のコストが掛かる事となる。平常時における住民サービスや建設費等、庁舎としての機能との兼ね合いをご検討いただきたい。
- ⇒ **【事務局】** 原子力災害に対する庁舎の防護対策について、福島第一原発の事故以降の東北管内での新庁舎建設を参考にしながら、また、施設間の距離による被害軽減なども検討しながら本委員会に提示していきたいと考えている。

<②新庁舎建設候補地の評価について>

- 事務局より、資料2「六ヶ所村新庁舎建設候補地の評価（7候補地）」、資料3「六ヶ所村新庁舎建設候補地の評価（4候補地）」についての説明を行った。
- **【委員長】** 資料2について、7候補地から4候補地に絞る段階での評価内容に誤りがあり訂正させていただいた。結果的には当初絞り込まれた4候補地に変更はなかった。よってこの4候補地にて引き続き検討を進めさせていただきたいが、承認いただけるか。
- ⇒ **【委員一同】**（承認）
- **【委員長】** 資料3について、4候補地をさらに絞り込むための評価基準を委員からの意見を踏まえて修正した。意見等はあるか。
- **【委員】** 候補地Dの北側に牛舎がある。規模が大きいのであれば万が一の家畜伝染病等への対策、影響を考慮する必要があると考えるがどうか。
- ⇒ **【事務局】** ある程度の影響は想定されるため確認する。
- ⇒ **【委員長】** 評価に影響はないか。
- ⇒ **【事務局】** 影響はないと思われるが、確認して次回委員会にて回答する。
- **【委員】** 修正した評価基準について、基本的な方向性は問題ないか。指摘等があれば、後日でもご意見をいただきたい。

(4) その他・閉会

- **【事務局】** 参考資料5「六ヶ所村新庁舎建設検討フロー」、参考資料6「六ヶ所村新庁舎建設基本構想・基本計画検討スケジュールについて」について説明。
- **【事務局】** 視察について、女川町に打診をしている。女川町役場は、行政機能と防災機能の基軸となる施設として平成30年9月に高台移転した事例となる。緊急事態宣言の対象にならなければ視察が可能とのことなので、今後日程を調整する。
- **【副委員長】** 次回検討委員会にて4候補地から1候補地を選定する予定と認識しているが、その間に約2か月ある。1候補地への絞り込みについて、次回の進め方の方針を伺いたい。
- ⇒ **【事務局】** 基本的には本委員会に村長が諮問しており、基本構想・基本計画を年度内に策定することを想定したスケジュールとなっている。ただし、次回検討委員会時に1候補地に絞り込むことは難しい部分もあると考えている。委員の理解を得られる候補地にて答申したいと考えている。今後のスケジュールは各検討会の都度、状況に応じて更新することを考えている。
- ⇒ **【委員長】** 恐らく次回検討委員会にて1候補地に絞り込むことは、まだ難しいと思われるため、今回は4候補地の概ねの評価結果を示して議論いただくことになるとと思われる。
- **【委員】** 評価項目及び重要度の見直しを踏まえた採点結果を早めに提示いただき、その上で次回検討委員会にて議論を行いたい。
- ⇒ **【事務局】** 採点結果の事前送付については検討させていただく。

以上